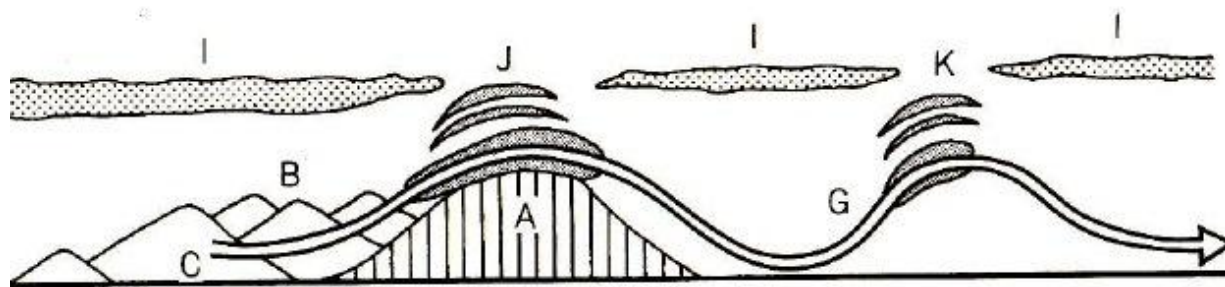


# 鈴鹿おろしと風下波動

関谷不二夫（東海支部）



## 1. 研究の動機

「おろし」とは山越え気流の総称のことを言うが、風下では波動現象が起こることはよく知られている。

風下波動（山岳波）の起こりやすい条件としては

- ① 風上側の山脈高度が 1200m 前後
- ② 風向に対して山脈が直交している
- ③ 風下側の斜面は急傾斜でその先は平野か、海面などで平坦である。

などである

西よりの季節風の際には、自宅付近でもしばしば、山岳波により発生したと思われる雲が観測される。

そこで実際の山岳波の波長と風速との関連を調べてみることにした。

## 2. 研究方法

鈴鹿おろしの吹いているときに、山脈の稜線から山岳波による雲域の中心の距離と御在所山頂の風速データを測定する。

御在所山頂のデータは三重県環境局のホームページより入手する。

雲域の位置についてはできる限り雲域の中心付近まで移動し、位置を特定する。

## 3. 鈴鹿山脈の概要

鈴鹿山脈は三重・滋賀県境に連なっており、稜線上の主峰御在所岳 1212m、

をはじめ鎌ヶ岳 1161m、釈迦岳 1092m、竜ヶ岳 1099m、藤原岳 1165mなどがほぼ南北に連なっている。



東側（三重県）は急傾斜になっており、その先は平坦な伊勢平野が続いている。

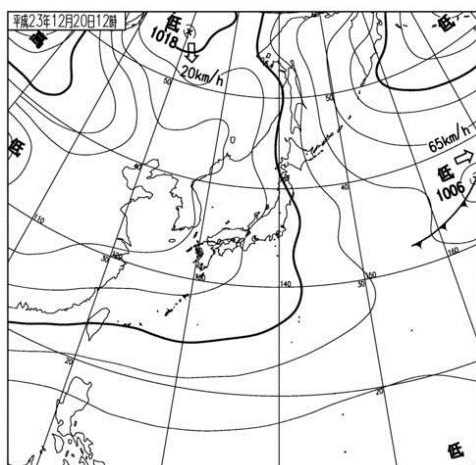
一方、西側（滋賀県）は徐々に高度を下げながら近江盆地まで山地が続いている。冬季には山脈に直行する西よりの季節風が吹き、前記の条件に非常によく合致する。

## 4. 鈴鹿おろしの吹く気圧配置型

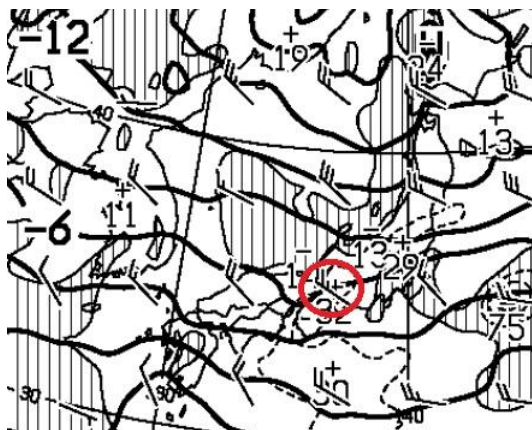
山脈に直交する西または西北西であることが条件などで、西高東低の冬型の気圧配置の際に鈴鹿おろしが吹く。北西風の場合は雪雲が流れ込むことが多く、山岳波による雲は観測できない。

## 5 研究した事例

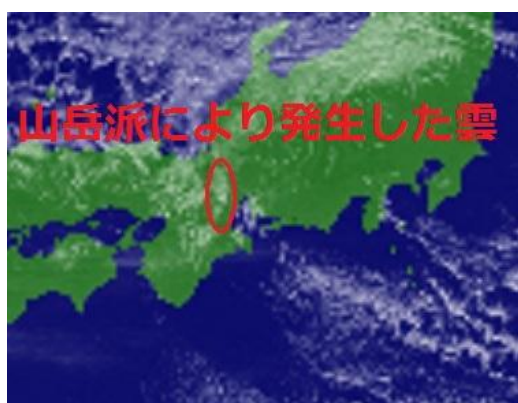
2011年12月20日の気象状況



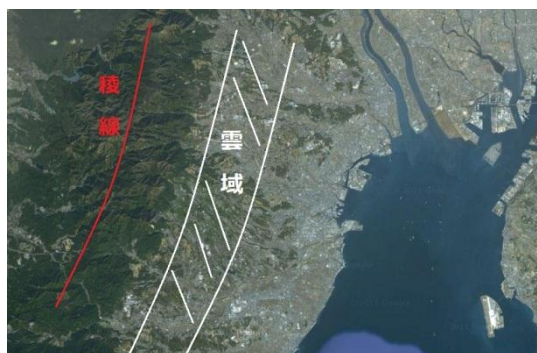
地上天気図 12時



AXFE578 9時



気象衛星画像 (可視 12時)



観測した雲域

御在所山頂観測点気象状況

時間	風向	風速	気温
10	W	5.6	-3.6
11	W	6.8	-3.9
12	WNW	7.0	-3.6
13	WNW	10.0	-3.7
14	WNW	8.5	-3.6
15	WNW	11.0	-3.8

風向は西または西北西

風速は平均8.2m/sで山脈に直交する風が吹いていると考えられる。

### 5. 風速との関連

この事例では稜線と雲域の中心との距離は約10kmであるが、山岳波の波長は一般に風速と正の相関関係にあるといわれているので、他の事例とあわせて検証をする。

参考文献 伊勢湾岸の大気環境  
名古屋大学出版会  
大和田道雄 著